

研究主題

総合的な学習の時間における「グローバル化」の実践について
～国際理解と福祉をとおして～



栄町立安食小学校
皆川 直
北川 太一

1 研究主題

総合的な学習の時間における「グローバル化」の実践について
～国際理解と福祉をとおして～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

令和2年度より全面実施となる新学習指導要領において、「グローバル化が一層進む中で、横断的・総合的な課題として国際理解に関する課題を扱い、探究的な学習をとおして意義のあることだ」と明記されている。また、「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことが求められている。具体的には、①なにができるようになるか ②何を学ぶか ③どのように学ぶか などを行ったことが求められる中で、自ら課題をもち、主体的・対話的で深い学びの実現が急務となっていると言える。

(2) 地域・学校の実態から

栄町は、利根川沿いにある古くから西市で栄えた商業地帯と農業地帯、新興住宅地からなる町である。本校は栄町の中心地区に位置する学校で、保護者や地域住民の学校教育への関心は高く、古くから郷土の人々に愛され親しまれてきた「我が母校」である。地域住民の横のつながりも強く、学校への支援について、様々な面で多くの住民からの支えを得る協力体制が構築されている。

栄町では、「栄っ子宣言」を掲げ、挨拶や人をいたわること、いじめをしないこと、故郷を誇ること、誠実であること、夢に向かって頑張ることを教育の柱としている。栄町教育委員会では、グローバル化に対応した人間教育事業を推進し、一昨年度より外国語活動の指導のためのALTを週1.5日配置し、昨年度の9月からは、週3回の配置として、すべての外国語活動にALTが加わるようになった。栄町では、中学生を対象に海外派遣事業を実施し、参加を希望する中学生も増えてきている。また、町で開催するイベントに年々外国の方が参加する状況になってきていて、中学生はボランティアとしてイベントに参加し、外国の方と触れ合っている。さらに、栄町が行っているまちづくり大学において、「外国人おもてなし学部」を設置するなど、町を挙げてグローバル化への対応を行っている。こうしたことから、「グローバル人材」の育成を目指す上で、小学生にも機会をとらえ、外国の方と触れ合う、資質・能力を育てていく必要があると考える。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、素直ではあるが、自分を表現したり、意見を述べたりすることは苦手である。また、事前アンケートを考察すると高学年では、「外国の人と話をしてみたい」「外国の人と友達になつたり外国のことについてもっと知つたりしてみたい」という質問に対して、「そう思う」と答えた児童は、半数と関心が低い。また、「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいか」という質問にそう思うと答えた児童は34%である。

アンケートから、積極的に外国の方と交流しよう、異文化を理解しようという意識が高くないことが実態であることがわかる。

昨年は総合の時間を用いて、国際交流を行った。高学年で年1回行われていたが、決められたプログラムの中での授業であり、児童の主体的な活動ではなかったことが課題としてあげられた。

外国語活動の中でも、主体的に考えたり、自己表現をしたりする活動やコミュニケーション能力を育成する活動が少なかったことが課題としてあげられる。

3 主題について

本校では、総合的な学習の時間においての「グローバル化」を、単に国際交流をすることや、英語を話せることではなく、「世界の様々な人と、共に生きようとする姿勢をもつ児童の育成」であると考えた。具体的に、共に生きようとする姿勢をもつ児童とは、地域への理解と日本と世界との違いに目を向けたり、様々な人に自分から関わろうとする意識をもったりする児童だと捉えた。

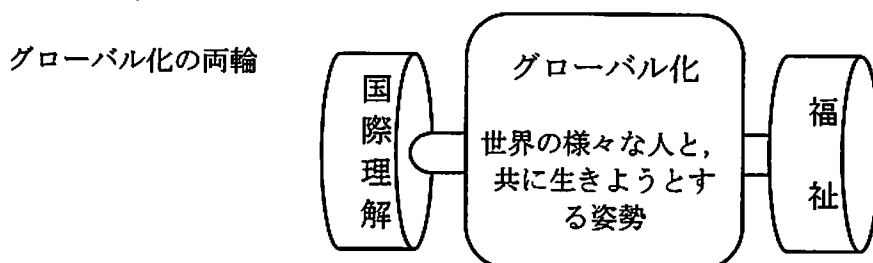
そこで、主に国際理解に関する学習、及び、高齢者や障害のある方との関わりをもつ福祉に関する学習が重要だと考えた。つまり、探究的な学習を通して、地域に暮らす外国人とその人たちが大切にして

いる文化や価値観、および、身の回りの高齢者や障害のある方の暮らしや、それを支援する仕組みについて、主体的に学ぶことを主題として捉えた。

主に国際理解に関する学習をする場合には、郷土を愛し、広く様々な国や地域を視野に入れ、外国の生活や文化を体験し慣れ親しむことや、衣食住といった日常生活の視点から、日本との文化の違いや、その背景について調査したり、追究したりしていくことが重要だと考える。

また、主に福祉に関する学習をする場合には、高齢者や障害のある方などへの知識だけではなく、どんな人でも住みやすい工夫や、それらを支援する仕組みへの気づき、さらには、「みんな平等である」という意識の向上も促していきたい。

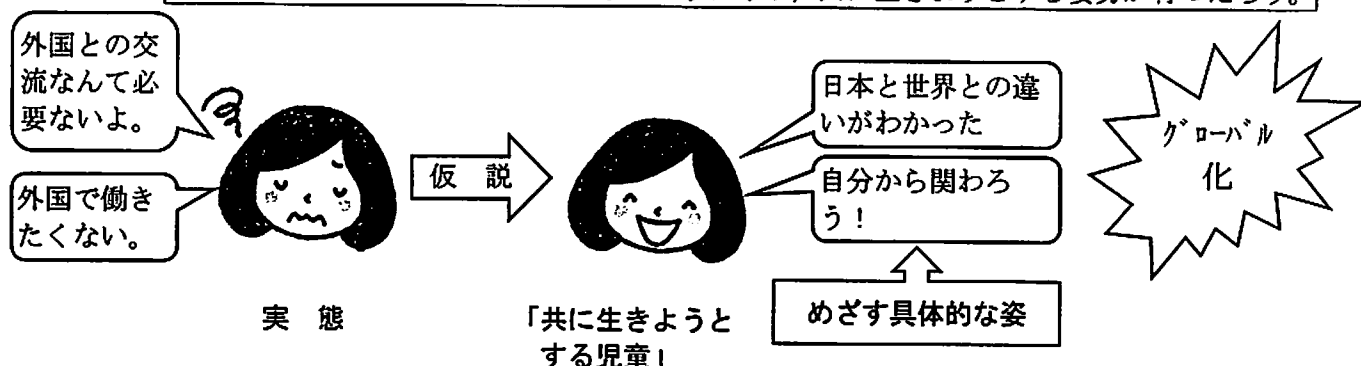
総合的な学習の時間において「グローバル化」を推進する場合、外国語活動・外国語、特別の教科道徳などとの横断的な取り組みも重要である。これらを踏まえ、研究に取り組んでいくこととした。



4 研究仮説

仮説

指導計画を工夫すれば、主体的に学ぶようになり、共に生きようとする姿勢が育つだろう。



5 手立て

仮説への手立て

- ・ 指導計画の整備。
- ・ グローバル人材育成カレンダー（年間計画の作成）
- ・ 総合的な学習の時間を核として、教科的なつながりを意識した外国語活動・外国語、特別の教科道徳での実践。
- ・ 地域の外国人やパラリンピック選手を招くなど、実際に交流をする場の設定。
- ・ 単元毎の探究課題の設定や発表形態の工夫。
- ・ 1年生から日本文化に触れるための、百人一首やカルタへの取り組み。

6 指導の実際

①指導計画の整備

主に国際理解に関するもの		
学年	単元の内容	詳細およびその他の活動
3年生	栄町の特産品「どらまめ」	海外のアーティストとの昼食交流 台湾の小学生と昔遊び交流
4年生	千葉県についてまとめる	海外のアーティストとの交流 台湾の小学生と昔遊び交流
5年生	栄町のよさをまとめる	日本語学校の学生との交流 海外のアーティストとの共同制作づくり 歌舞伎観劇（日本文化への知見を深める）
6年生	日本のよさをまとめる 世界との違いを探る	日本語学校の学生との交流 海外のアーティストとの共同制作づくり 日本食研による授業（テーマ「海外で働くということ」）

主に福祉に関するもの		
学年	単元の内容	詳細およびその他の活動
3年生		安食小「iマーク」の発表 クラスごとに話し合った人権宣言の発表 あすチャレ!スクール（パラリンピアンとの交流） I'm possibleへの取り組み 道徳での人権・福祉教育
4年生	パラリンピックに関するもの	安食小「iマーク」の発表 クラスごとに話し合った人権宣言の発表 あすチャレ!スクール（パラリンピアンとの交流） I'm possibleへの取り組み 道徳での人権・福祉教育
5年生		安食小「iマーク」の発表 クラスごとに話し合った人権宣言の発表 あすチャレ!スクール（パラリンピアンとの交流） I'm possibleへの取り組み 道徳での人権・福祉教育
6年生	いろいろな生き方を知る みんなが幸せに生きる方法についてまとめる	安食小「iマーク」の発表 クラスごとに話し合った人権宣言の発表 あすチャレ!スクール（パラリンピアンとの交流） I'm possibleへの取り組み 道徳での人権・福祉教育

昨年度は6年生で、「日本のよさをまとめる」学習について探究的に調べる活動を行った。海外に誇る日本のよさを、インターネットなどを活用してまとめ、実際に外国人に英語で発表したり、ゲームしたりする場を設けた。しかし、一方的によさを伝えることに終始してしまい、外国と比較したり、なぜその様な文化が根付いたのかという理由までに目を向けることができなかった。そこで、今年度は、全体計画を整備し、3年生は栄町の特産品について、4年生は千葉県について調べることにした。5年生は栄町のよさを、6年生は日本のよさをまとめ、実際に外国人と交流をする場を設定した。学校として、全体計画に統一感をもたせることで、それぞれの内容について詳しくなれるだけでなく、町と県を比較して考えさせることで、6年生での学習では、世界との違いの理由に目を向けることへとつながった。

②実践

実践例1 ～主に国際交流に関することの実践～
日本語学校の学生との交流活動6年生

- 1 単元名 日本のおよさを伝えよう
2 単元の目標

評価の観点	配慮事項
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある日本のおよさをを見つけ出し、それぞれの特徴を理解する。 (ノート、行動観察、発言、発表資料、発表原稿) ・外国の文化のおよさを知り、日本の文化のおよさと比べ、その背景について理解する。 (ノート、行動観察、発言、発表資料、発表原稿)
思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて自分たちに必要な情報を集める。 (ノート、行動観察) ・情報を関連付けたり、比較したり、分類したりすることで、伝えたい特徴を見つける。 (ノート、行動観察、発表資料) ・言語や他のコミュニケーション手段を用いて、自分の伝えたい内容を伝えようとする。 (行動観察、発言)
学びに向かう力・人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習を通して、日本のおよさや外国のおよさを進んで見つけようとする。 (ワークシート、行動観察、発言、発表原稿) ・友達と力を合わせて探求活動に取り組む。 (行動観察、発言) ・他のグループの考えや気づきのおよさを認め、相手の考えを理解しようとする。 (ワークシート、行動観察、発言)

3 単元の計画 (13時間)

学習過程(時間数)	活動内容と学習活動	指導・支援 ○評価【方法】
課題の設定(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のおよさについて話し合う。(1) ・興味・関心別のグループに編成し、計画を立てて役割分担をする。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が例を出し、よりたくさん の意見が出るように促す。 ○日本のおよさを考え、調べようとして いる。(学び・人) 【行動観察・ワークシート】
情報の収集(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の担当について調べる。(3) 資料を集める。(パソコン、本) 資料の精選をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンの検索の仕方、保存の方法 など、全体で指導した後、個別に対 応していく。 ・インターネット上の情報が全て正し いわけではなく、それを判断してい くことが大切であることを伝える。 ・英語で発表することを考え、難しい 言葉は簡単な言葉に直していくよう に指示する。 ○日本のおよさを見つけ出している。 (知・技) 【ノート、行動観察、発表資料】 ○自分の担当に適した資料を収集して いる。(思・判・表) 【ノート、行動観察、発表資料】
整理・分析(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報をもとに、グループで 話し合い、画用紙にまとめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真やイラストの配置や色合いなど を工夫し、見やすい資料を作るよう に声をかける。 ・要点を絞って書くようにさせる。 ・日本語ではなく英語やローマ字で書 くようにさせる。

		<p>○日本には他国に誇れる文化がたくさんあることに気づき、まとめている。 (思・判・表) 【ノート、行動観察、発表資料、発言】</p>
まとめ・表現 (1)	・台湾の小学生に発表する。(1)	<p>・原稿を読むだけでなく、身振り、手振りでも伝えられるようにする。 ・笑顔で発表できるように声をかける。 ・質疑応答など、相手の様子を見て積極的に声をかけられるようにする。 ○英語や身振り、手振りをういて、日本のよさを相手に伝えている。 (思・判・表) 【行動観察、発言】</p>
整理・分析 (2)	<p>・発表の振り返りを行い、情報の追加や修正を行う。 ・海外の文化について調べ、情報の追加をする。</p>	<p>・台湾の小学生に発表して上手いかなかったところを改善していく。 ・他グループと見合い、英語と身振り、手振りで伝わるように練習をする。 ・海外の文化について知り、日本語学校の学生との交流が深まるように準備する。 ○外国の文化のよさを見つけ出し、それぞれの特徴を理解している。 (知・技) 【行動観察、発言、発表原稿】</p>
まとめ・表現 (1)	・日本語学校の学生に発表する。(1)	<p>・原稿を読むだけでなく、身振り、手振りでも伝えられるようにする。 ・笑顔で発表できるように声をかける。 ・質疑応答など、相手の様子を見て積極的に声をかけられるようにする。 ・相手の国の文化などを聞き、日本との文化の違いを知る。 ○英語や身振り、手振りをういて、日本のよさを相手に伝え、外国の文化のよさも知ろうとしている。 (学び・人) 【行動観察、発言】</p>
整理・分析 (1)	<p>・発表の振り返りを行い、情報の追加や修正を行う。 ・日本語学校の学生から聞いた海外の文化のよさについてまとめる。</p>	<p>・日本語学校の学生に発表して上手いかなかったところを改善していく。 ・それぞれの文化の違いが分かるようにまとめさせる。 ○日本の文化と外国の文化の違いを認め、異文化のよさを理解している。 (学び・人) 【行動観察、発言、発表原稿】</p>
まとめ・表現 (1) 本時13 / 13	・5年生に日本の文化と海外の文化の違いを発表する。(1)	<p>・それぞれの文化を比べ、分かりやすく伝えられるようにする。 ○日本のよさと外国のよさについて伝えようとしている。 (思・判・表) 【行動観察、発言】</p>

4 探究課題と発表方法

日本のよさを外国の人に伝えよう！

日本のよさを伝える過程をとおして、日本と外国との文化の違いとその背景について調べる。

①日本のよさを外国人に発表し、日本文化について知る。

②日本の文化と外国の文化を比較することをとおして、その背景について考える。

5 展開 (13/13)

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価【方法】	資料
5	<p>1 学習のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 5年生に本日の流れや発表の目的を説明する。 		<ul style="list-style-type: none"> 机 いす
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">発表や調べ学習からわかった日本と外国の文化のよさを伝えよう。</div>			
3 5	<p>2 グループ毎に発表する。</p> <p>○『日本のよさ』と『外国のよさ』を比較し、違いについて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語を使って調べたテーマを伝える。 日本の文化と外国の文化の特徴を説明する。 <p>・国際交流を行い思ったことや交流の際に気を付ける点を伝える。</p> <p>・質疑応答の時間を取る。</p> <p>○発表方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 12か所(12グループ)で7分ずつ同時に発表する。 1分間で6年生が移動し、次の発表の準備をする。 5回くり返す。 ①自己紹介、発表内容の紹介 ②日本のよさ ③外国のよさ ④背景や理由 ⑤国際交流を行ってみて ⑥質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの文化のよさを比較して、わかりやすく発表できるようにする。 その文化が広まった理由も伝えられるようにする。 上手くいった点や伝わらなかった点など、詳しく伝えるようにする。 文化の違いや互いのよさについてより深く伝えるようにする。 明るく大きな声で発表するように声をかける。 音楽をかけ、移動と発表のめりはりをつけられるようにする。 <p>○日本のよさと外国のよさについて伝えようとしている。</p> <p>(思・判・表)【行動観察, 発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文型カードを用いて、発表して良いことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料 画板 本立て マグネット
3	<p>3 終わりの会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 5年生に発表の感想を聞く。 		
2	<p>4 ふり返りを行う。</p>		



日本について発表&質問 (外国の方へ)

海外の文化のよさと、日本との違いやその理由を追加で調べる。



文化の違いについて発表 (5年生へ)

実践例2 ～主に福祉に関することの実践～
パラリンピックへの理解を深める 4年生

1 単元名 パラリンピックスタッフになってパラリンピックを成功させよう

2 単元の目標

評価の観点	配慮事項
知識及び技能	・パラリンピックの目的や歴史、競技について理解することができる。 (発言・行動観察, ワークシート)
思考力, 判断力, 表現力	・パラリンピックに関する情報を収集し, 調べたことをまとめ, 工夫して発表することができる。 (発言・行動観察, 発表資料)
学びに向かう力・人間性	・パラリンピックに関する課題を設定し, 調べようとする。 (行動観察・ワークシート) ・パラリンピアン生き方を知ること, 自分生き方をよりよいものにしていこうとすることができる。 (発言・行動観察)

3 単元の計画 (13時間)

学習過程 (時間数)	活動内容と学習活動	指導・支援 ○評価【方法】
課題の設定 (2)	・パラリンピックについて知っていることを付箋に書き出して分類する。(1) ・興味関心別のグループに編成し, 計画を立てて役割分担をする。(1)	・事前に教師が手本を作成する。 ・「競技」や「目的」「歴史」などの分類を示し, グループでの話し合いがスムーズに進むよう支援する。 ○パラリンピックに関する課題を設定し, 調べようとしている。(学びに向かう力・人間性) 【行動観察・ワークシート】
情報の収集 (4)	・外部講師の話を聞く。(1) ・各自の役割に沿って調べる。(3) 資料を集める。 資料の精選をする。	・話を聞く際のポイントを事前に確認しておく。 ・パソコンを扱う技能に個人差がある場合は個人的に支援していく。 ・検索のヒントを与え, 多くの情報を収集できるように支援していく。 ・インターネット上の情報が全て正しいものではないということを意識付けるようにする。 ・国際的な問題や障害者差別の問題にも触れるようにする。 ○パラリンピックに関する情報や資料を収集し, それらを使って調べている。(思考力, 判断力, 表現力) 【発言・行動観察, 発表資料】
整理・分析 (4)	・収集した情報を持ち寄り, グループで意見交換をする。(1) ・収集した情報をグループで整理する。(3)	・要点を絞って, わかりやすく伝えるようにする。 ・図や表の活用, 写真の提示など発表の工夫をさせる。 ○パラリンピックに関する情報を整理し, 自分が選んだ方法でまとめることができる。(思考力, 判断力, 表現力) 【発言・行動観察, 発表資料】 ○パラリンピックの目的や歴史, 競技について理解している。(知識及び技能) 【発言・行動観察, ワークシート】
まとめ・表現 (3)	・発表会を行う。(1) ・振り返りをする。(1) ・3年生に発表する (1)	・2回に分けて発表する。 ・発表を聞く児童は, 発表者の工夫や, よい点を見つけながら聞くように言葉かけをする。 ・感想をワークシートに書いてから発表するようにす

		る。 ○パラリンピアンの方を知ることで、自分の生活をよりよいものにしていこうとしている。 【発言・行動観察】
--	--	--

4 探究課題と発表方法

①探究課題

パラリンピックスタッフになろう
パラリンピックのスタッフとなって、パラリンピックを成功させることを目的とした。「自分がスタッフだったら」と想像することで、競技の種類や障害のある方が移動、生活しやすい空間を考えるきっかけとなることを狙う。また、発表は仮想のパラリンピック会場を想定し、3年生を観戦客に見立てて案内する形式をとる。

5 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価【方法】	資料
5分	1 事前アンケートの結果を確認する。 ・アンケートの結果を見て気付いたことを発表する。	・オリンピック、パラリンピックに関するアンケートの結果を提示する。 ・自分たちの課題が明確になるよう、視覚的に捉えやすい板書をする。	アンケート結果
3分	2 単元の学習のめあてを確認する。	・パラリンピックについて調べて3年生に発表するという計画を伝え、意欲がもてるようにする。	
パラリンピックスタッフになってパラリンピックを成功させよう			
25分	3 パラリンピックを成功させるために何が必要かについて考えたことを共有する。 ・生活班に分かれて、パラリンピックについて知っていることや調べたいことを話し合う。	・事前に教師が手本を準備し、作成の助けとなるようにする。 ・「競技」や「目的」「施設」などの分類を示し、話し合いがスムーズに進むようにする。 ・1組は付箋を活用するKJ法、2組はKWL表を使って話し合う。	模造紙 付箋 KWL表
5分	4 興味・関心をもったことを確認する。 ・グループで話し合ったことをもとに、自分が興味・関心をもったことをワークシートに書き出す。	・グループとしてではなく、個人で考えるように伝える。 ・なかなか書けずにいる児童がいた場合は、グループで作った模造紙を確認するよう促す。	ワークシート
5分	5 興味・関心をもったことを発表する。 ・ワークシートに書いたことを自分の言葉で発表する。	・友達の意見を聞いて新しい考えが浮かんだ場合は、ワークシートに書き加えてよいと伝える。 ・書いたものの中から、1つだけ発表すればよいことを伝える。 ・グループとしてではなく、個人としての考えを発表させる。 ○パラリンピックに関する課題を設定し、調べようとしている。(学びに向かう力・人間性)	ワークシート

2分	6 次回の活動を確認する。 ・教師の話聞き、質問がある場合は挙手して発言する。	【行動観察・ワークシート】	
		・今回のワークシートをもとに、興味関心別のグループ編成をすることを伝える。	

(話し合い活動)

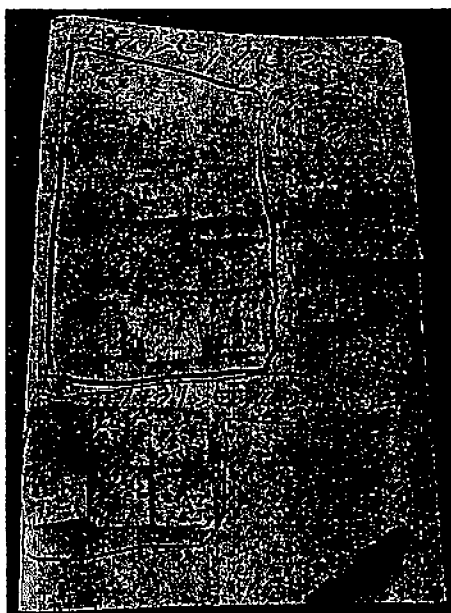
スタッフになるためには、どんな種目があるのか知らないかね



足の不自由な人が、歩きやすい会場じゃないといけないね。

そういえば、車いすにはどんな工夫があるのかな？

(班ごとにまとめていく)



このグループは話し合いの結果

- 競技
- 有名な選手
- 会場の様子
- パラリンピックの歴史・意義

などを調べたいという意見が出た。

7 考察

①アンケートからの考察

単元前後でのアンケートの結果から比較・考察を行った。

○国際的な視野への意識

将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしたいと思いますか？（対象：R元年度6年生）という質問には以下のような結果になった。

	H30年6月	R元年6月
とてもそう思う	18%	41%
そう思う	17%	34%
あまり思わない	18%	25%
全く思わない	47%	0%

以前は、否定的な考えが、65%あったが、25%に減少し、国際的な活躍を願う児童が、35%から75%へと大きく増えた。なお、この結果は、民間のアンケート（キッザニアによる無作為の小・中学生高学年を対象とした調査「グローバルに働きたい」アンケート）の65%という数値よりも大きい。一般的な小学生よりも、国際的な視野をもったことがわかる。

これは、実際に外国の方と会話をする機会をもったことや、外国で活躍している人の体験談を伺う場をもったことが大きく影響していると考えられる。

○外国の人との交流について

外国の人と友達になりたいと思いますか？という質問には下のような結果となった。

高学年	H30年6月	R元年6月	中学年	H30年6月	R元年6月
とてもそう思う	30%	35%	とてもそう思う	43%	66%
そう思う	25%	37%	そう思う	22%	24%
あまり思わない	15%	25%	あまり思わない	15%	10%
全く思わない	30%	3%	全く思わない	20%	0%

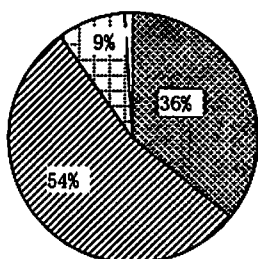
高学年、中学年とも、外国の人との直接の交流をとおして、友達になりたいと答えた児童が多かった。

特に、台湾の小学生、日本語学校の学生など、交流の機会が多かった6年生では、「とてもそう思う」と答えた児童が48%に上るなど、大きな変化が見られた。

このことから、実際の交流の中で、「友達になれた」という経験から、その他の国の人などとも友達になりたいという意識が芽生えたと考えられる。

○日本人としてのアイデンティティや文化への親しみ

栄町や千葉県、日本といった、郷土のよさについてくわしくなれたかについて、アンケートを実施した。



■強い肯定

■肯定

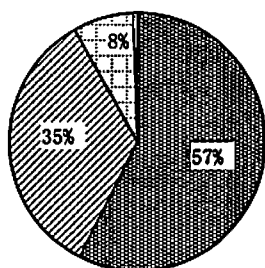
■否定

□強い否定

肯定的な回答をした児童は、80%以上に上り、総合的な学習の時間をとおして、外国文化への気づきや、慣れ親しみだけではなく、郷土への気づきや愛着も深くもつことができたことが分かった。

指導計画の整備により、学年実態に合わせた郷土への気づきを取り得たことによる影響だと考えられる。

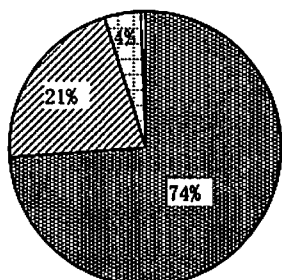
○障害者やお年寄りに差別なく生活できるか。



- 強い肯定
- 肯定
- 否定
- 強い否定

肯定的な回答をした児童は、92%を超えた。以前までは障害者は少し特別な存在だと感じていた児童も見られたが、あすチャレ!スクールなどをおとして、「みんな同じ」という認識の芽生えが見られた。否定的な児童も、「かわいそうだと思ってしまう」といった理由が挙げられ、存在を否定する意見ではなかった。

○パラリンピックを直接観戦してみたいか。



- 強い肯定
- 肯定
- 否定
- 強い否定

観戦したいと前向き答えた児童の割合は95%を超えた。これは、民間のスポーツ財団が行った調査の44%に比べて、明らかに高いものであった。障害者だという視点を超え、スポーツに励むアスリートとして素直に見ていると言える。

総合的な学習の時間の取り組みをおとして、様々な人と共に生きようという意欲が向上したと言える。

②児童の感想からの考察

6年生の単元後に児童に行ったアンケート(複数回答)や反省から、考察を行った。

○交流会に関する感想

意見・感想	出現率 (%)
楽しかった	44.2
仲良くなれた	18.6
難しかった	18.6
英語を勉強したい	16.3
ジェスチャーの大切さ	14.0
嬉しかった	14.0
笑顔の大切さ	9.3
もっと交流がしたい	7.0
相手の国についてくわしくなれた	4.7
外国に行きたくなった	4.7

約17%の児童は難しかったと感想を挙げたが、それ以外の児童は楽しかったと前向きな発言が見られた。もっと交流がしたいという児童も見られ、活動が有意義だったことがうかがえる。

また、笑顔やジェスチャーの大切さといった、交流での注意点に気が付いた児童も多かった。もっと英語を勉強したくなったという児童もあり、外国語の授業への良い影響も見られた。

○交流会で学んだこと

意見・感想	出現率 (%)
文化の違いに気が付いた	44.9
似ている文化があると気が付いた	42.6
英語だけではなくジェスチャーでも通じる	23.3
外国の国のよさを知った	16.3
交流の素晴らしさ	16.3
日本のよさを知った	11.6
日本の物が海外で使われている	7.0

多くの児童が、日本と、世界の文化の違いや類似点について気が付くきっかけとなった。また、交流をおとして、日本のよさについても感じた児童が多かったようだ。

さらに、交流をすることの素晴らしさだけではなく、会話の際にジェスチャーを用いることで通じやすくなることにも、体感的に気が付くことができた。

8 成果と課題

①成果

- ・地域、県、日本、世界と視野を徐々に広げることで、児童の意欲の向上につながるなど、指導計画の工夫の有効性がわかった。
- ・総合的な学習の時間だけでなく、特別の教科道徳や、外国語活動、その他の教科などとの横断的なつながりを意識して学習することができたことから、グローバル人材育成カレンダーは効果的であった。
- ・児童の疑問などに直接答えたり、実際に体験したりする場が設けられることから、実際に交流をする場の設定は、児童の意欲の向上に大変有効であった。
- ・意欲の向上が見られたことから、児童の実態に合わせて、単元のゴールを設定する、単元毎の探究課題の設定、及び、発表形態の工夫は効果的だとわかった。

②課題

- ・国際交流の場や自国の文化や異文化についてふれる機会を教育課程に位置付け定期的にコーディネートするために、関係機関との連携をさらに図っていかなければならない。
- ・1・2年生からの国際理解に向けた取り組みについて、今後の考えていく必要がある。
- ・探究課題については、より魅力的な課題を設定できるように研修を積んでいく必要があるだろう。

9 参考文献

- 学習指導要領解説 総合的な学習の時間
- 文部科学省HP 国際理解教育の現状について
- キッザニア 将来は「グローバルに働きたい」アンケート キッザニア Press Release より
- 笹川スポーツ財団 「青少年のスポーツライフ・データ」

資料

その他の実践報告（H30年度～令和元年度）

台湾の小学生来校・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1

あすチャレ！スクール・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2

I'm Possible（パラリンピック教育教材）・・ P. 3

パトリオットさんとの交流・・・・・・・・・・・・ P. 4

どら豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5

中国の小学生との交流・・・・・・・・・・・・・・ P. 6

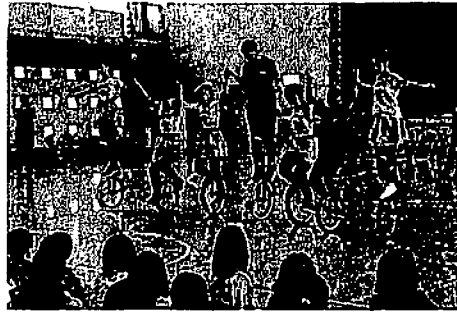
日本独自の文化体験・・・・・・・・・・・・・・ P. 7

修学旅行を通してのグローバル人材の育成・・・ P. 8

グローバル人材育成カレンダー（6年生）・・・ P. 9

「台湾の小学生との交流」(主に3～6年) 令和元年度

○歓迎集会



全校で歓迎集会を行った。初めは緊張していた両校の児童だが、歌や一輪車の発表を通して、笑顔が見られた。

○3・4年生との昔遊び交流



3・4年生は、日本の昔遊びをとおして、交流を行った。台湾にも似た遊びがあることを知り、お互いに驚く様子も見られた。

○6年生の日本のよさの紹介



6年生は、日本のよさについて伝えた。英語を用いて、伝え、お互いに簡単な英語で質問し、理解を深めることができた。

○5・6年生との給食・遊び交流



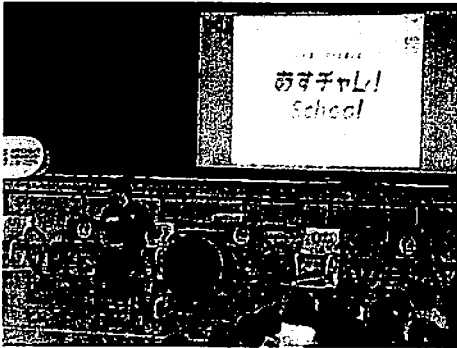
給食やその後の休み時間にも遊びをとおして交流を行った。互いにつたない英語であったが、ジェスチャーを取り入れることで、会話を楽しむ姿が見られた。遊びでは、笑顔が多く見られる交流であった。

○成果

- ・文化の交流により、日本と似た文化があることに気が付いた。
- ・漢字なども用いて、意思疎通をとろうとする前向きな姿勢がみられた。
- ・やって見せたり、一緒に行動してみせたりすることで、交流を図ろうという意識の芽生えが見られた。

「あすチャレ！スクール～永尾さんとの交流～」(全学年) 令和元年度

○パラリンピックとは



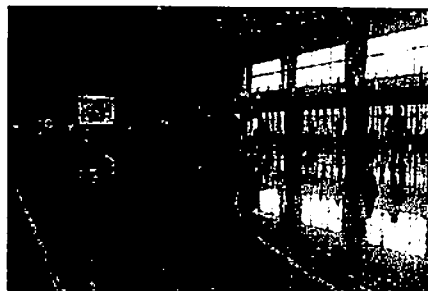
パラリンピックの映像や、種目のプロモーションビデオの視聴をとおして、様々な種目があることに気が付いたようである。特に、視覚障害者の幅跳びでは、観客が静かにし、コーチの声を頼りに跳ぶという協力する姿に感心していた。映像の中に出てくる選手をみて、障害にも様々あることを知って驚いたようである。

○レーサー体験



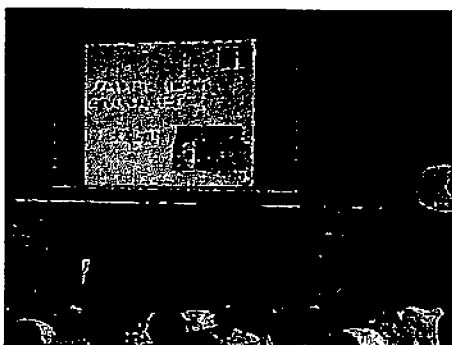
陸上競技で用いるレーサーに乗らせてもらう体験をした。速度を測定し、アスリートがいかに普段からトレーニングをしているのか、身をもって感じたようであった。

○車いすリレー



車いすリレーも経験し、操作の難しさと、体を動かすことの楽しさを味わった。障害があっても運動することが、健康的で意義のあることだと気が付くきっかけとなった。

○障害についての講話



永尾選手の生い立ちや、どのように障害をもったのか、どのように前向きに歩んだのかを聞く機会となった。「障害は、工夫や気持ちの持ちようでは不便なものではなくなる」という発言には、多くの児童がはっとしたようである。苦手なことにもどんどん挑戦して欲しいというエールを多くの児童は心に刻んだようである。

○成果

- ・障害というものに特別視をせずに、みんな同じように生きているという視点をもつきっかけとなった。
- ・自分らしく、前向きに生きている選手をみて、自分の生活を省みることができた。
- ・パラリンピックへの興味・関心が高まった。

○パラリンピックの価値について学ぼう (3～6年生)

国際パラリンピック委員会公認教材である I'm POSSIBLE を用いた、総合的な学習での取り組みである。

車いすバスケットボール選手である香西選手の活躍と、そこに至るまでの様子を知ることによって、パラリンピックの価値である「勇気」「強い意志」について考えるきっかけとなった。オリンピックへの印象の強い児童であるが、ただ記録の向上を目指すのではなく、自分や他の競技者の障害を認めつつ、前向きに生活していくことを狙ったパラリンピックの価値について気が付いたようだ。

その後、だれもが分け隔てなく一緒に楽しむための様々な工夫について考えることで、パラリンピックの価値である「公平」について具体的に理解することができた。

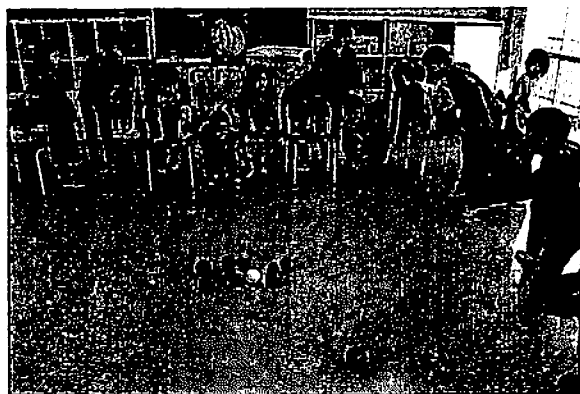
○実技「パラリンピックスポーツ～ボッチャ～」

誰もが楽しめ、集中力、投球技術、戦略性、チームワークなどが必要なボッチャを経験することで、一人ひとりの特徴を理解し、認め合うことを狙った。初めての競技であったが、分かりやすいルールと、初心者でも技術の差が生じにくいボッチャによって、自然に協力したり、前向きに取り組んだりする姿が見られた。



簡単なルールと投球でみんな楽しく参加できた。

自然に戦略的な話し合いが行われた



パラリンピックの学習を通して、「勇気」「強い意志」「公平」という価値に気が付き、障害を持っていることが特別なことではないという意識の変容が見られた。

「パトリオットさんとの交流」(4～6年) 令和元年度

○4年生との交流



○5年生との交流



○6年生との交流



どの学年も、笑顔であいさつをし、外国語の授業で学習したことをもとに、英語での会話を楽しんだ。そして、夢中になって色を塗り、安食小学校のみんなから愛されているうさぎのピーターと桜の木を作り上げた。

○成果

- ・簡単な単語や文を使って、外国の方と交流をすることができた。
- ・国籍や言語などが異なっても、同じ人間であり、身振りや表情などで会話を楽しむことができることに気付いた。

《どら豆》（3年）平成30年度

1 授業の実際

《どら豆》を実際に生産しているどら豆畑（大澤様）へ行き、生産者の方から直接《どら豆》の名前の由来や品種、栽培方法の他、どら豆を使ったカステラや豆腐など、どら豆を使った商品の説明などもしていただいた。

また、説明の後には、実際にどら豆の収穫体験もさせていただき、子ども達が収穫したどら豆はお土産として各家庭に持ち帰り食べることができた。翌日は学校給食でもどら豆の塩茹でが出されて子ども達は「美味しい」と言いながら全員が喜んで食べた。

2 授業の様子



3 授業の成果

- どら豆の栽培方法や収穫作業について体験的に理解することができた。
- 「栄町で栽培している農作物は？」と聞くと真っ先に「どら豆！」と返事が来るように、どら豆を栄町の美味しい特産品としてしっかりと認識するようになった。
- 「どら豆カステラ」など、どら豆を材料とする商品も町の特産品として自信をもって紹介できるようになった。

《中国との国際交流会》（3・4年）平成30年度

1 授業の実際

今回の国際交流会で、中国の3年生36名と本校3・4年生児童との交流を行った。今回は、日本の文化を中国の小学生に伝え、一緒に楽しく活動する、というものであったので、日本の昔から伝わる遊びを一緒に楽しんだ。行った遊びは、コマ・竹とんぼ・ビー玉・ペーゴマ・けん玉・折り紙・福笑い・すごろくである。クラス毎に子どもを割り振り、中国の方がすべてを網羅できるような活動を行った。

当日、本校の児童は言語的な会話はできなかったが、身振り手振りでコミュニケーションを取っていた。どちらもとても楽しそうに活動していたのが印象的である。

2 授業の様子



3 授業の成果

○英語以外の外国語にも恐怖心をもつことなく、楽しそうに関わることができた。

○中国に対するイメージが大きく好転し、「次は自分達が中国に行きたい。」など、積極的な発言が見られた。

「日本独自の文化体験」(5・6年) 平成30年度

○茶の湯体験(6年生)



社会科で室町時代の学習をしたのちに、栄町にある房総のむらの方に来ていただき、茶の湯体験を実施した。茶の湯の成り立ちや簡単な作法について知り、実際にお茶を飲ませていただいた。少し苦いお他の味だけではなく、靴の脱ぎ方、茶碗の扱い方など、教科書だけでは学習できないことが多く、驚きの連続だったようだ。

○墨絵体験(6年生) 平成30年度



社会科で墨絵について学習したのちに、実際に墨絵をかく時間を設けた。墨の濃淡が良く出るように穂先にだけ墨を付け、竹をかきあげた。

墨絵体験とおして、墨ひとつで絵を描く難しさと、濃淡だけで表現する墨絵の奥深さに気が付いたようだ。

○生け花体験(5年生) 平成30年度



花育の一環で生け花体験をした。一枚の葉と一輪の花と真剣に向き合い、葉を丸めたり、葉脈にそって切ったり、自分なりの生け花をすることができた。命の大切さや花の強さや美しさに気が付くことができた。

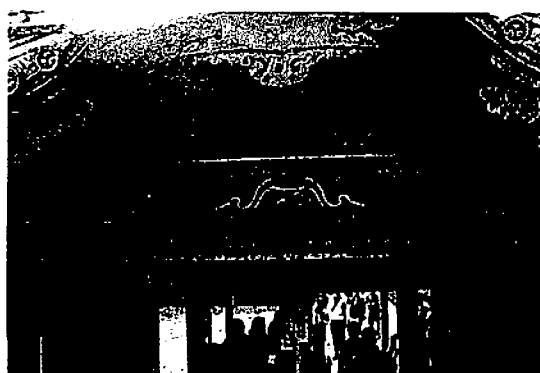
○成果

日本の文化に触れ、落ち着いて自分自身と向き合う時間を取ることができた。また、現在にも続いている文化の奥深さやおもしろさについて、少しでも感じることもできた。

《修学旅行を通してのグローバル人材の育成》（6年）平成30年度

○東照宮① 日本文化との出会い

社会科で学習した日光東照宮について、どのような建物なのか、だれを祭っているのか、どのような国宝があるのかについて事前に学習をしておき、修学旅行当日にそれらを見学した。当日はワークシートを用いて、国宝を実際に目にし、自分たちで調べながら見学を進めた。三猿や眠り猫などについても、どのような意味があるレリーフなのか説明を聞き、家康が東照宮に託した思いについて理解を深めた。様々な国宝や重要文化財を目の当たりにし、感動しているようであった。



○東照宮② 外国人観光客との交流

東照宮の見学の際に、東照宮を訪れていた外国人の方に簡単な英語を用いて交流する機会を設けた。

Of course.
I'm from America.

May I ask you?
My name is
Where are you from?

Oh. Thank you.
It's very
beautiful.

Thank you.
Please have fun.
This is Japanese ORIGAMI.
Here you are.



簡単な英語での質問内容や日本の紹介を事前に考えておき、練習をしておいた。当日は率先して話しかける児童が多く見られた。また、質問に答えていただいた方には、感謝の気持ちとして折り紙でおった鶴を渡した。外国の方も、日本の文化に触れ喜んでた。会話が弾み、こちらからの質問だけではなく、外国人の方からも簡単な英語で質問をしていただくなど、交流する姿が見られた。

交流の際には笑顔で、明るく会話する姿が見られた。

○日本独自の文化に触れ、愛国心をもつことにつながった。また、外国人との交流を通して、異文化の方と交流するための方法や、その心情が育った。

教科	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外国語	This town is my home. (この町は私の家です。)	Where do you live? (どこに住んでいますか?)	How do you like your town? (あなたの町はどんな感じですか?)	I like my town. (私の町は大好きです。)	My home is in the city. (私の家は都市にいます。)	My home is in the country. (私の家は田舎にいます。)	What do you want to do? (何をしたいですか?)	My dream is to be a doctor. (私の夢は医者になることです。)	What do you want to be? (何をしたいですか?)	My dream is to be a teacher. (私の夢は先生になることです。)	My dream is to be a scientist. (私の夢は科学者になることです。)
総合的な学習	・日本の魅力を紹介しよう	・コミュニケーション	・はじめての仕事体験 ・日本語学校との交流 ・茶の湯体験	・日本文化を学ぼう (見学、コンクワ)	・パワリスティック教育 ・教育見学会を行う	・キャリア教育 (キャリアトーク)	・5年生に総合の学習を伝えよう。				
道徳	・人生を豊かにするは自分 ・志をたてる	・文の言葉 (聖徳太子) ・絵巻物の思い出 ・世の中がながくなる事 ・心は広い	・友達だからこそ ・手品師 ・青い雨を取りもどせ ・食事中のメール	・安全についてみんなで 考えてやってみよう ・東の国生、西の国生 ・「もしも僕」にのめら れた思い	・山中伸弥先生の偉業 ・応え人間の眼 ・フランスの発見とセシウム	・祖国にオリンピックを ・まっすぐ ・日本をやるため ・おばあちゃんに中学生	・六千人の命のピザ ・ひきょうだよ ・究極の理想「平和」を 求めて ・思いやりの花がさくま さき	・心つながり、文かほら かり、世界にほびけを ・白くまの騎士 ・花さき作法茶会	・フランスで育てた花 ・志を得れば、再びこ の地を踏まず ・うばわれた自由	・卒業に向けて ・情報について考えよう ・自分らしく、自分の心 に気づく	・アイヌのほろり ・生かされている「大切 な命」 ・天から送られた手紙
国語	・言葉で伝え合おう ・引用して話そう ・考えや意見をノートに まとめよう	・随筆を読んで、経験をも とにして書こう ・学校案内パンフレットを 作ろう ・話し合っ、考えや思 いを一つにまとめよう	・伝えたいことをすいせい 文文にまとめよう ・日本語のひびきを味わ おう	・感想を話し合おう ・敬意を表す言い方	・確かな言葉の使い手 になろう ・自分のもの見方や考 え方を探めよう ・意見を出し合おう	・詩を味わおう ・主題を帯える ・物語の世界を想像して 書こう	・一年生に向けて物語を 書こう ・筆者の考えを読み、感 想を書こう ・回文を作ろう	・説得力のある文章を書 こう ・大切な本をしようかい しよう	・興味のある人物をし ようかいしよう ・日本の文化を考へよう ・日本語の方言	・同じ顔をもつ漢字 ・日本の文化を考へよう ・日本語の方言	・国語の学習 これまで これから ・中学生になるみなさん へ
算数	・つりあいのとれた形を 調べよう	・円の面積の求め方を考 えよう ・文字を使って式に表そ う	・分数のかけ算を考えよ う ・分数のわり算を考えよ う	・角柱や円柱の体積の求 め方を考えよう ・およその面積や体積を 求めよう	・割合の表し方を考えよ う ・形が同じで大きさがち がう図形を調べよう	・速さの表し方を考えよ う	・比例をくわくく調べよ う	・順序よく整理して調べ よう	・資料の特ちょうを調べ よう	・量の単位のしくみを調 べよう	・算数卒業旅行
社会	・縄文のむらから古墳の くにへ ・天皇中心の国づくり	・貴族のくらし ・武士の世の中へ	・今に伝わる室町文化 の湯 ・3人の武将と天下統一	・江戸幕府と政治の安定	・町人の文化と新しい学 問 ・明治の国づくりを進め た人々	・世界に歩み出した日本 ・長く続いた戦争と人々 のくらし	・新しい日本、平和な日 本 ・	・子育て支援の願いを実 現する政治	・国の政治のしくみ ・わたしたちのくらしと 日本国憲法	・日本とつながりの深い 国々	・世界の未来と日本の役 割
理科	・わたしたちの生活と環 境 ・ものの燃え方	・植物の成長と日光の開 わり	・体のつくりとはたらき り	・植物の成長と水の開わ り ・生物どうしの開わり	・月と太陽	・水よう液の性質	・土地のつくりと変化	・てこのはたらき	・電気の性質とその利用	・生物と地球環境	
音楽	・音の重なりとひびき ・マールセラーの歌 ・ハンガリー舞曲	・ひびき合いを生かして ソング	・演奏のみりよく ・生命 ・ソング ・日本の歌、海外の歌 ・カンタリー・ロード ・さくら	・演奏のみりよく ・和楽器	・音楽のききどころ	・豊かな表現を求めて	・豊かな表現を求めて	・豊かな表現を求めて	・私たちの国の音楽 ・和楽器	・音楽に思いを込めて	・音楽に思いを込めて
図工	・わたしのお気に入りの 場所	・布や杖のコンサート	・壁のつくり	・写して見つけたわたしの 世界	・強くてやさしい組み木 パズル	・強くてやさしい組み木 パズル	・クローズアップで見え る新世界	・ゆめを かたちに	・ゆめを かたちに	・みんなの ギャラリー	
家庭	・くふうしよう ・朝の生活	・きれいにしよう ・クリーン大作戦	・暑い季節を快適に	・暑い季節を快適に	・生活を楽しく しようソーイング	・生活を楽しく しようソーイング	・くふうしよう ・楽しい食事	・くふうしよう ・これからの生活	・考えよう ・これからの生活	・考えよう ・これからの生活	・成長したわたしたち
体育	・体ほぐしの運動 ・ハードル走		・バスケットボール ・保健体育	・水泳	・表現運動 ・陸上運動 ・体づくり運動	・ネット型 ・体力テスト ・保健体育 ・パワリスティック教育 (パワリスティック)	・マット運動	・体づくり運動 ・跳び箱運動 ・保健体育			・ゴール型
特活	・1年生を迎える会 ・地区児童会 ・ピアサポート①	・陸上壮行会 ・陸上大会	・なかよし集会 ・ピアサポート②	・地区児童会	・なかよし集会 ・音楽壮行会 ・音楽大会 ・ピアサポート③	・ピアサポート④	・地区児童会	・6年生を送る会 ・なかよし集会			
行事	・入学式		・大掃除	・運動会	・体力テスト	・修学旅行	・大掃除 ・校外学習	・海外アーティストとの 交流	・創立記念行事	・卒業式	